

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.181 / 2021 .MAY

(月1回発行)

世界への切符つかむ/ 第18回日本デフ陸上競技選手権大会



世界一を目指し、更なる飛躍を誓う佐々木選手

本学の佐々木琢磨職員（新助手）が第18回日本デフ陸上競技選手権大会の男子100mに出場し10秒92（向かい風1.8M）で優勝しました。

男子200mにも出場し準優勝でした。

今大会は日本の聴覚障がい者陸上で最高峰の競技会となっており、5月15・16日（日）に愛知県知多市にある知多運動公園 物産フードサイエンス1969知多スタジアムで開催されました。

この結果により、8月22日（日）～8月28日（土）にポーランドで開催される第4回世界デフ陸上競技選手権大会100m、200mの出場権を獲得しました。

○佐々木選手の話

100mは強い風の中でしたが何とか優勝できました。200mは2位でしたが、4年ぶりに自己ベスト更新することができました。

無事に両種目とも世界ろう大会の派遣記録標準を突破し、内定をいただきました。

再び、世界大会でトップ選手と走れるのは本当に待ち遠しく、楽しみでいっぱいです。世界一を目指し、金メダルを持って帰れるようにこれから練習を頑張ります！

応援ありがとうございます。



＜ 目 次 ＞

・世界への切符つかむ/ 第18回日本デフ陸上競技選手権大会	1
・スポーツ、教育、大震災と私	2
・新しい6学科紹介動画を公開中です ・柔道部男女ダブルV/東北学生優勝大会	3
・芝草通信 NO. 25	4
・「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 37	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツ、教育、大震災と私

仙台大学 副学長 松本 文弘

1 スポーツと私

(1) 選手として

中学校、高等学校、大学と卓球部で活動しました。中学校の時は仲間に恵まれ、仙台市で団体優勝。高等学校の時は恩師に恵まれ、今でも定期的に会ってご指導を受けていますが、戦績は県大会1・2回戦でした。大学では、奮起して練習しましたが、全日本学生は出場のみ、東北学連の大会で入賞3回という地方の二流選手でした。

(2) 指導者として

仙台の高校を卒業して地元の大学に進んだので、大学の4年間は選手として活動する傍ら、母校のコーチを4年間務めました。結果は、4年目に団体戦で県大会優勝、インターハイ出場という最高の結果となりました。大学卒業後は、宮城県の教員となり、選手強化に取り組みましたが、そこでライバル校の監督の高橋仁という人（現在は仙台大学で学長をしています）と出会いました。

(3) 運営者として

大学の3、4年生の時は東北学連の技術委員として大会運営等に携わりました。教員になってからは高体連の強化委員、運営役員をし、30歳の時から事務局長として大会運営等の番頭をしていました。自分は選手、指導者よりも運営者の方が合っていると感じ始めていました。



2 学校教育と私

数学の教員として3つの高校に12年間勤務した34歳の時に、県教育委員会に異動することとなり、卓球の指導者、運営者としての立場を失うことになりました。当時、7年後に迫っていた地元開催の国体の選手強化業務を4年間行いました。その後、高校改革、人事管理、教育指導、生徒指導など様々な部署で過ごすことになりました。結果として38年の教員生活のうち、学校が18年、教育委員会が20年という変則的な教員人生を送ることになりました。

3 東日本大震災と私

2011年3月11日、私は女川高校の教頭として勤務していました。学校は高台にあるとはいえ、既に多くの避難者が校庭に集まっており、そこから、全員でより高い場所に移動することは困難で、自分は津波にのまれる可能性もあると考えていました。幸い、50分後に到達した津波は校舎・校庭には及ばず、私たちは一命を取り留めましたが、女川の町は跡形もなくなりました。それからは、電気も電波もない中での避難所運営、生徒の安否確認、学校再開に向けた準備等を行いました。

直後の4月中旬には県教委に戻され、教育指導の班長をしながら、避難所となっている学校からの情報収集、校舎が使用不能となった学校の間借り、仮設、再建等の段取り、県独自の学校安全基本指針の策定や防災系学科の新規立ち上げの原案検討に携わりました。その後、スポーツ健康課長として防災教育の展開、教材開発、各種研修会の運営等を行いました。

4 再び、スポーツと私

また、スポーツ健康課の課長になったことで、スポーツとの関係も多くありました。県のスポーツ推進計画の進行管理、ジュニアトップアスリート育成事業、県スポーツ協会の運営などの場面では仙台大学の先生方にお力をお借りする機会も多く、大変お世話になりました。

これからも、仙台大学の事業展開や学生諸君を指導する中で、こうした経験を伝えたり、活かしたりすることができるよう努力してまいります。

今後とも、よろしくお願い致します。

新しい6学科紹介動画を公開中です

スポーツを「したい」「みたい」「ささえたい」高校生の皆さん必見です！

最新バージョンの本学6学科（体育、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道、子ども運動教育）の紹介動画ができました。

各学科の特徴や専任教員が紹介され、在学生の声も盛り込まれています。

一緒にスポーツをいろんな視点から探究しませんか？

ぜひ、本学公式YouTubeチャンネルをご覧ください。



柔道部男女ダブルV/東北学生優勝大会

柔道部が河北新報旗争奪東北学生優勝大会で男女団体の両部門を制しました。

男子は2大会連続、女子は14大会連続の優勝です。

大会は5月22、23の両日、仙台市の武道館で開催され、男子は7人制トーナメント、女子は5人制のリーグ戦形式で行われました。

この結果により男女ともに6月26、27日（日）に東京・講道館、青山学院大学で開催される全日本学生優勝大会に出場します。

結果は次の通り

○男子

準決勝 対東北福祉大学（5-0）○

決勝 対東日本国際大学（3-1）○

○女子（2勝）

対 東北福祉大学（5-0）○

対 富士大学（3-0）○

○優秀賞

男子 田森暁士（現武4年）、田嶋伸一（現武4年）

女子 対馬みなみ（現武3年）、新名彩乃（現武1年）



芝草通信 NO. 25

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

6月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生（暖地型日本芝生）は成長して全面緑色になりました。一部寒地型洋芝が混植している場所は成長の違いで凹凸が目立つところもあります。そろそろ芝刈りの時期です。

第二グラウンド寒地型洋芝は昨年秋に播種した芝草の生育が旺盛になり緑色が濃くなりました。本来は春先に寒地型洋芝を全面播種して冬季期間に衰退した芝生の密度を高めます。昨年に続いて裸地化の激しい東側センター部分約1,000㎡だけに追い播き播種をして、その他の約7,000㎡は昨年秋に播種した寒地型洋芝を成長させることで春先の寒地型洋芝の播種の経費を節約することに変更しました。5月中旬には冬越しした暖地型洋バミューダグラスが期待以上に多く生き残りましたので、6月予定の播種をせずにその経費を肥料代金の増額に振り替えることにしました。

【参照】月間維持管理については、Monthly Report Vol.164/2019. DEC から毎月掲載済みです。

高麗芝生の種子が実った状況：高麗芝生の繁殖は根茎と一緒に切り取り出荷した後に残った根茎に肥料と目土を施して再生する方法（栄養繁殖）で行っています。芝生は通常使用する草丈以上に成長すると種子を実らせませんが、日本では種子を育てるよりも栄養繁殖で生産します。

京都府立桂高校では工夫を施した特殊な小型温室を使用して種子を実らせ色々な実験をしています。生産性は低く営業ベースでは実施されていません。仙台大学の高麗芝生も背丈を伸ばしすぎたことにより種子が実りましたが、しかしこの種子は収穫しても繁殖するための種子として利用することはできません。その状況を紹介します。



写真1 遠景
暖地型日本芝高麗芝生が成長して全面が緑色になった。
しかし手前の小高い丘は水分が少なくやや薄い。奥のこげ茶色の部分が種子発芽の多い部分
＜噴水回り芝生4体前＞



写真2 近景
小高い丘の部分は緑色が薄く成長が遅い
＜噴水回り芝生4体前＞



写真3. 近景
赤いペンの周りは成長が早く多数の
種子を発芽している
＜噴水回り芝生4体前＞



写真4. 接写
こげ茶色が発芽した種子
一つ一つの種子は小型で痩せている
＜噴水回り芝生4体前＞

（ 5月27日記 ）

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 37

担当：浅野 勝成 助手

スポーツ創志科1・2年生を対象とした授業が今年度も始まりました。授業名は「スポーツ概論」、高校の体育の先生方と大学助手（AT、S&C、栄養士）で行う複合型の授業となります。

5月11日（火）に、2年生女子を対象とした第1回目の授業を担当しました。授業テーマは「競技力向上に必要な基礎知識を知ろう①」です。競技力を構成する諸要素とは、行動体力・防衛体力とは、スキルとは、という内容で講義を行いました。基本的には教科書の内容に沿って授業を進めていきましたが、学術論文の引用も行いました。例えば、睡眠の重要性を理解してもらうには、「睡眠が重要」とだけ言っても響くことはないと考えます。睡眠不足とケガの関係性に関するものや睡眠と競技パフォーマンスに関する論文を用いることで説得力が出るかと思えます。また、ブレイクストーミングの時間を複数回設けて考えることへの慣れ、教科書の音読を行わせて発表への慣れ、プリントに自分の考えを書かせることで考えをまとめることへの慣れ、などのように知識を付けるだけでなく、思考力・判断力・表現力等も養成できるよう、高校の先生方と試行錯誤しながら授業を展開することを心がけています。今年度は、AT・S&C・栄養のスタッフが担当する内容は30科目あるため、今後も高校の先生方と連携を図りながら、より良い授業を作っていければと思います。